

岐阜県下呂市（御嶽山）における活動報告

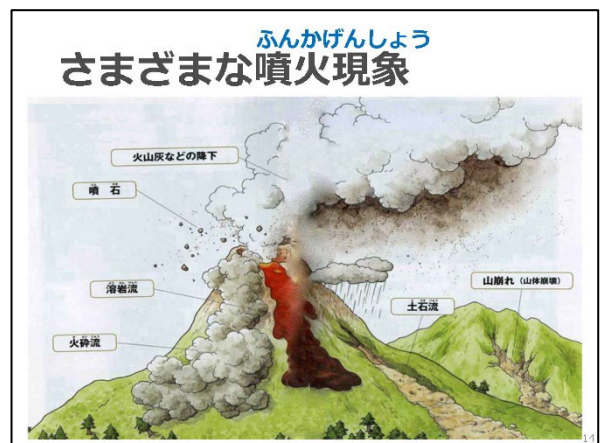
火山防災エキスパート	杉本 伸一氏（雲仙岳災害記念館 館長）
申請団体	岐阜県
活動日	令和6年7月27日（土）
活動場所	下呂市星雲会館
活動した取組名	夏休み親子火山学習教室
参加者	地域住民 計12名：児童（8名）、保護者（4名）
活動の目的	2014年の御嶽山噴火災害から10年の節目を迎えるにあたって、夏休み期間を利用し児童及び保護者に火山現象や火山防災について学んでもらうことで防災意識の向上を図った。
活動の概要	児童及び保護者を対象に、火山災害対応経験と火山防災の重要性等について講話を行った。

【申請団体の状況】

- 本年は2014年の御嶽山火山噴火から10年目となるほか、改正活動火山対策特別措置法が施行されるなど、火山防災にとって節目の年であることから、御嶽山の火山災害警戒地域において火山防災に関する意識や関心を高めていきたい。
- 県はこれまでも県内の小中学校において、白山や焼岳等に関する火山学習教室を毎年開催。今回は、御嶽山の火山災害警戒地域である下呂市にて、親子を対象に火山学習教室を開催。
- 今回の派遣では、火山防災エキスパートによる火山災害対応経験と火山防災の重要性等に関する講話を通して、児童及び保護者の防災意識の向上を図る。

【講話の内容】

- 岐阜県には5つの活火山がある。噴火の種類としては、水蒸気噴火、マグマ水蒸気噴火、マグマ噴火の3つある。また、噴火現象の種類としては、火山灰や噴石、溶岩が火口から流れてくる溶岩流、火山ガスや岩石が流れ下る火砕流、降灰後の土石流、火山の噴火による山崩れなどがある。



- 1990年、雲仙普賢岳で198年ぶりに噴火が始まり、火砕流、土石流、火山灰による甚大な被害が発生した。この噴火により、人々は3つの涙を流した。第一に、1991年6月3日の大きな火砕流により多くの大切な命が犠牲になったことから、「かなしい涙」を流した。第二に、噴火や地震を止めることはできないため、「くやしい涙」を流した。第三に、義援金、救援物資、励ましの手紙など、全国から様々な支援があったことから「かんしゃの涙」を流した。
- 火山は災害を起こすだけではなく、棚田、温泉、湧き水、農作物、豊かな海など火山からの恵みもある。
- 噴火や地震等、地球の営みを止めることはできないが、過去にどのような災害が起きたか知ることで災害に備え、命を守ることはできる。
- 雲仙普賢岳の噴火を経験し感じたことが3つある。第一に、避難生活が長引きふるさとに入ることができなかつたため、ふるさとの大切さ。第二に、噴火後自分たちで蘇ることのできる、自然のたくましさとしずかさ。第三に、その蘇る力を見ながら、復興に向けた人々のたくましさとしずかさを感じた。この体験を大事にしていきたい。



過去を知ること で命を守れる

地球の営みである
火山や地震は止めることはできません
過去にどのような災害が
起きたかを知ることで
命を守ることはできます



さいがい たいけん かん 災害を体験して感じたこと

- ふるさとの大切さ たいせつ
- 自然のたくましさとしずかさ しぜん うつく
- 人々のたくましさとしずかさ ひとびと うつく

【質疑応答】

● 焼岳は噴火するのか。また、どんな時に噴火するのか。

- 焼岳も活火山だから噴火する。ただ、いつどこから噴火するのか分からない。

● 御嶽山が噴火したとき、前兆として何があったのか。

- 噴火直前に地震が増えたが、直前のため間に合わなかった。山登りをしているときに噴火が起こったら、遠くに逃げるのが基本だが、どうしても逃げることができない場合にはリュックを頭の上に乗せて岩陰に隠れる等して、自分の身を守ることが大事である。

● 雲仙普賢岳の火砕流により、43名の尊い命が失われたと教えていただいたが、火砕流の温度は何度くらいあるのか。

- 普賢岳の溶岩は粘り気の強いデイサイトなので約 800 度ある。火砕流で亡くなった人がいるあたりの火砕流は 300～400 度だったと言われている。
- 主に2か所で被害が出ているが、報道陣がいた場所は、現場において遺体で見つかっている。そこから 200m 下にいた農業研修所という消防団の詰め所にいた人は、一度逃げているが、300～400 度の熱い火山ガスを吸っているので、気道熱傷により病院で亡くなっている。

ふんか みらい 噴火の未来

雲仙普賢岳はまた噴火するの？

- 普賢岳は、まだ若い火山です。これからも、**必ず噴火すると考えられています。**
- でも、それが「いつ」なのかを**予想することは出来ません。**もしかしたら、皆さんが生きている間にも、次の噴火があるかも知れません。

43名の命が失われた

消防団	12名
警察	2名
マスコミ	16名
タクシー	4名
火山学者	3名
住民	6名



1つ目は、**かなしい涙**でした。

【活動の様子】



【夏休み親子火山学習教室の様子】

- 杉本委員による講話後には金沢大学の酒寄教授と平松教授による実験や解説が行われた。

